

分析結果報告書〔1〕1/2

1. 模擬排水試料

1. 1 模擬排水試料 (COD)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(ガイド25) 3. MLAP 4. (上記1~3を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者 氏名	
経験年数 (年)	() 年
実績 (年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<分析結果>

1回目(mg/L) 注1~3)	() mg/L
2回目(mg/L) 注1~3)	() mg/L
3回目(mg/L) 注1~3)	() mg/L
Z-スコアの報告書資料編への記載 注4)	1. 希望する 2. 希望しない

注1) 本調査においては、下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。

注2) 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけJIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。

注4) 分析結果を報告した機関が20に満たない際は、Z-スコアの報告書資料編への記載を行わない場合がある。

<分析方法等>

試料受取日 注)	()
分析開始日 注)	()
分析終了日 注)	()
分析方法	1. 滴定法 (手分析) 2. 滴定法 (自動分析) 3. その他 ()
自動測定装置のメーカー	()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他 ()

注) 半角で入力する。例: 2020/7/28

分析結果報告書〔1〕 2/2

<測定条件等>

試料希釈率 注1)	()
試料量 (mL)	() mL
予備試験 (複数回答可)	1. 試料の分取量を決める試験 (CODの概略値を測定) を実施した 2. 銀塩の添加量を決める試験 (塩化物イオン濃度の定性的な測定) を実施した 3. 銀塩の添加量を決める試験 (塩化物イオン濃度の定量的な測定) を実施した 4. その他の試験を実施した () 5. 実施しなかった
銀塩の使用 種類	1. 硝酸銀溶液(200g/L) 2. 硝酸銀 (粉末) 3. 硫酸銀 (粉末) 4. その他 ()
添加量 注2)	() mL 又は g
銀添加後のかく拌 注3)	1. 手動振り混ぜ (約) 回/分 () 分間 2. マグネチックスターラーを使用 (約) 回/分 () 分間 3. 振とう機 (約) 回/分 () 分間 4. その他 ()
水浴中の温度 (°C)	最初 () °C 15分後 () °C 30分後 () °C
加熱終了後のしゅう酸ナトリウム溶液の 添加時期 (分後) 注4)	加熱終了から約 () 分後
標準原液(過マンガン酸カリウム溶液)	1. 購入 2. 自作
1. の場合のメーカー	()
1. の場合の濃度 (mmol/L)	() mmol/L
5mmol/L 過マンガン酸カリウムのファクター	()
5mmol/L 過マンガン酸カリウムの滴定量 (試料) (mL)	1回目 () mL 2回目 () mL 3回目 () mL
5mmol/L 過マンガン酸カリウムの滴定量 (空試験) (mL)	() mL

注1) 例：試料を20倍に希釈した場合は20と記入する。希釈しない場合は1と記入する。

注2) 硝酸銀溶液(200g/L)ではmL、硝酸銀(粉末)又は硫酸銀(粉末)ではg単位で記入する。

注3) 添加後のかく拌方法を選択し、かく拌回数(振とう数又は回転数)とその時間を記入する。なお、時間は分単位で記入する(例えば、30秒では0.5分間とする)。

注4) 加熱終了直後の場合は「0」を記入する。

<試料の保存状況>

保存方法	1. 冷暗所保存 2. 保存しない(直ちに分析) 3. その他 ()
試料の保存処理	1. 行った その方法 () 2. 行っていない
保存時間 (時間) 注)	() 時間
保存温度 (°C)	約 () °C

注) 時間単位で整数を記入する(例えば、60分では1時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--